

平成26年度 授業づくり拠点校（中学校国語）実践事例

◎ 公開授業指導案

第3学年 国語科学習指導案

指導者 砂川真由美

- 1 単元 我が校のPRをしよう
～資料などを活用して説得力のある話をする～

2 単元構成の意図

生徒たちは、これまでの学習において、グラフや数字を活用することで自分の意見の説得力が高められることを学んできた。そこで今回は、伝えたい内容がより分かりやすく伝わるように、写真という新たな資料を効果的に使わせたいと考えた。プレゼンテーションをするなど、写真資料を用いて自分の意見を説明する機会は今後ますます増えてくると考えられる。その際、自分の伝えたいことによって、それにふさわしい写真資料を選ぶ力が必要となってくるであろうし、相手が誰であるかによって、伝える内容や言葉遣い、伝え方などを変える必要があることも理解しておかなければならないはずである。そこで、今回は本校の運動会の名物である組体操にスポットをあて、それを生活経験や年齢が異なる相手に伝える場合、どうすればよいかということを考える言語活動を行うことにした。生徒にとっては自分たちの生活に密接につながっていることなので意欲的な取組が期待できる。その際、これまで学習してきたパブリック・スピーキングや説得力のある意見文の書き方などによって培われた既存の知識も活用して取り組んでいってほしいと考えている。さらに、今回のこの授業で生徒たちがこれまで行ってきた似たような活動にも理論付けが行われ、写真資料の効果的な使い方、相手を意識した伝え方などを生徒自身が自分のものとして獲得し、生活の中で活用していくことを望んでいる。

【生徒観】

本校3年生は、全国学力・学習状況調査においておおむね良好な成績を残すことができている。無回答率も非常に低く、最後まであきらめずに問題に取り組むことができる。しかし、「目的に応じて、資料を効果的に活用して話すこと」という趣旨で出題された「フリップの効果の説明したものとして適切なものを選択する」という問題の正答率は73.3%で、全国平均78.6%・山口県平均80.4%に比べて低い結果であった。他にも「複数の資料を比較して読み、要旨をとらえる」という問題においての正答率は29.3%で、全国平均31.4%、山口県平均30.7%に比べると若干低くなっていた。学習意欲も高く、話し合い活動も活発に行うことができるが、いくつかの資料を活用して効果的に自分の意見を伝えるということについては、さらに学習を深める必要性があるだろう。これからの社会を生きる生徒にとって、複数の資料から自分にとって必要な情報を取り出したり、資料を効果的に活用したりする力は一層求められていくものであると考えられる。また、伝える相手や目的を意識して、話す能力もコミュニケーションにおいて非常に重要な力であると考えられる。

【教材観】

菊川中学校の組体操「大和魂」は、もともとはきらら博で披露するために阿知須中学校が作ったものである。4年前に菊川中学校の運動会実行委員が阿知須中学校に習いに行き、DVDを何度も見返して、菊川中学校に取り入れたものである。現在は、阿知須中学校では、この組体操は実施されておらず、この形を残すのは県内でも本校だけである。男子全員が上半身裸の上にはっぴを羽織り、音楽に合わせて、次々と組体操を完成させていく様子は、力強さと一糸乱れぬ美しさをもっている。「大和魂」と呼ばれるこの組体操は菊川中学校が誇れる運動会の伝統となりつつあり、生徒たちもその雄姿に誇りをもっている。よって、他の中学校にはない、この組体操を他の中学校の生徒とこれから我が校に入学してくる小学校六年生それぞれに紹介するPR文を作成するという内容を教材化した。しかし、他の中学校の組体操を見る機会も少なく、本校で行われることになったもともとの経緯も知らない生徒にとっては、主観的なPRポイントしか思いつかないのではないかと考えられる。そこで、この組体操を導入した体育教員、今年度、初めてこの組体操を見た教員や初めてこの組体操に取り組んだ1年生へのインタビューや体験した生徒の詩を提示することで、複数の資料を手がかりに客観的なPRポイントも見つけることができるように構想した。

また、写真資料は6枚の異なる構図のものを用意し、生徒たちが伝えたい内容によって自由に選択できるようにした。

【指導観】

指導にあたっては、新聞記事を利用して写真の効果を考えさせ、取り上げる写真にも筆者の意図があることを学ばせたい。同じニュースでも新聞によって違う写真を取り上げているのは、そこにその写真によって何を伝えたいのかという記者の意図があるからである。伝えたい内容によって選ばれる写真が違うことについて学び、自分たちのPRにおいても自分たちが伝えたいことが表せる写真を選択できる力をつけさせたい。さらに、複数のインタビューなどいくつかの資料を提示することで、そこから必要な情報を取り出し、相手や目的を意識して、しっかりとした根拠をもって、写真を選ばせたい。そして、この授業を通して、資料の中から必要な情報を取捨選択し、伝える相手によって論理展開や写真資料の効果的な提示の仕方を考えて話す力を身につけさせたい。

また、班での話し合い活動や対話による交流を行うことで、互いに学び合い、自分の意見を深めることができるようにしていきたい。そのためにもまずは、一人ひとりが自分なりの考えをもって話し合い活動に臨むようにさせたい。

3 単元目標

- 写真という非言語資料を効果的に使って、組体操のPRを行うことができる。(話すこと・聞くこと)
- 相手によって伝える内容や伝え方を工夫して、自分の考えを伝えることができる。(話すこと・聞くこと)
- 互いの表現の仕方を評価し合い、自分の表現に生かすことができる。(話すこと・聞くこと)

4 指導計画（全3時間）

次	題 材	配当時間数
1	新聞記事から写真の効果を考える	1
2	複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をPRするための写真を選ぶ	1（本時）
3	相手や目的を意識して組体操のPRを考える	1

5 本時までの学習の流れ

第1次 新聞記事から写真の効果を考える。

〈めあて〉東京オリンピック開催決定を伝える二つの新聞記事の写真を比べ、その効果を考えよう。

〈主な学習活動〉

- ・写真を見て、分かることを考える。
- ・自分ならどちらの写真を使いたいか、根拠をもって考える。
- ・互いの根拠を聞き合うことで、それぞれの写真を使った新聞社の意図が分かる。



6 本時案

(1) 教材 「我が校のPRをしよう」

(2) 主眼

複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をPRするための写真を選ぶことができる。

(3) 評価の観点

- ①自分の考えをもって、話し合いに参加することができたか。
- ②資料から必要な情報を取り出し、相手を意識してPRするための写真を選ぶことができたか。

(4) 準備物

ワークシート、ホワイトボード、ペン（黒・赤）、イレイザー、授業評価カード
拡大写真



(授業風景)

(5) 学習の展開

過程	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 授業のポイントの確認	1 複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をPRするための写真を選ぶことを確認する。	・写真を提示し、運動会を思い出させる。
展 開	2 相手の確認	2 小学校六年生、他中学校の生徒、という年齢や生活経験が異なる立場の人に伝えることを確認する。	・進学説明会、他校への学校PRなど具体的な場を想起させる。 ・それぞれがどんなことを知りたいと思うか、考えさせる。
	3 インタビューや一年生の詩の提示	3 インタビューや一年生の詩を参考に自分なりに伝えたいことを考える。	・資料を手がかりに小学校六年生と他校中学生へ伝えたいことを考えさせ、それがよく伝わる写真を2枚選ばせる。
	班で話し合い、それぞれの相手にどんなことを伝えたいかを考え、写真を2枚選ぼう。		
開	4 班になって互いの意見の紹介	4 班になってそれぞれが考えた伝えたいことによって選んだ2枚の写真を紹介し合う。	
	5 発表	5 ホワイトボードにそれぞれの相手に伝えたいことを書かせ、その写真を選んだ理由を発表する。	
ま と め	6 伝える相手によつての違いの確認 7 授業の振り返り	6 伝える相手によって何が違うかを考える。 7 本時の学習をふり返り、自分自身の取組と学習を通して分かったことなどを評価カードに記入する。	・どんな相手にどんな目的で伝えたいかによって、使う資料も文章も変わることを確認する。 ・次回までに、今回選んだ写真と伝えたいことを元にPR文を考えてくることを確認する。

- 1 主眼
複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をするための写真を選ぶことができる。
- 2 指導上の留意点
①自分たちの生活と結びついた身近な材料で考えさせると、生徒の関心や意欲を高める。
- ②考える手順を与えることと、どうすれば伝えたいことを考えることができるかを示す。
- ③話し合い活動の際には、伝えたいことを根拠として、その写真を選んだ理由が説明でき、しかも個人でしつかりと自分の意見を述べたから話し合い活動に臨ませる。
- ④話し合い活動の手順に従って、互いの意見を聞き合い、内容を吟味しながら、班の意見として、合意形成ができるようにさせる。
- ⑤各班の発表から、本時のまとめを言い、次時においても、今回学んだことを意識して、文章が作れるように確認をする。
- 評価
資料から読み取ったことを元に、伝える相手に応じた伝えたいことを考え、写真を選んでいる。

まとめ

どんな相手によって、どんな目的でも伝えたいこと、使った資料も文章も変わる。

各班の話し合いボード	伝えたいことを書いたボード	

伝えたいことを考える手順

- ①資料を読み、伝えたいこととなり、その部分に線を引くこととなる。
- ②相手を考え、伝えたいことを考へ、伝えたいことを伝える。
- ③伝えたいことをふまえて、それに合う写真を選ぶ。

伝える相手

- 小学校六年生
他中学校の生徒

組体操	写真

授業のポイント

複体の意識して、複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をするための写真を選ぶ。

本時の流れ

- ①本時の授業のポイントを確認し、学習の見通しを立てる。
- ◆写真を提示し、運動会を思い出させる。
- ◆小学六年生、他中学校の生徒という年齢や生活環境が異なる立場の人に伝えることを確認する。
- ②インタビューや詩などを参考に、自分なりに伝えたいことを考える。
- ◆資料を手がかりに伝えたいことを考えさせ、それがよく伝わる写真二枚を選ばせる。
- ◆伝えたいことを考える手順を示す。
- ③班で話し合い、伝える相手にふさわしい伝えたいことを決め、それぞれ最も合う写真を選ぶ。
- ◆話し合いの手順に従って、班で話し合わせる。
- ◆ホワイトボードに伝えたいことを発表させる。その写真を選んだ理由を伝える。
- ◆班で出された意見を比較して、伝えさせる。よって何が違うかを考える。
- ④本時のまとめをする。
- ◆本時の学習を振り返り、自分自身との取組と学習を通して自分自身を評価カードに記入させる。

◎ 研究協議会での意見や提案、授業後の考察（協議はワークショップ形式で実施）

1 意見

- めあては分かりやすかった
- タイマーを使用することで、時間設定ができるのがよい。
- 身近な題材を選んでおり、生徒が興味・関心をもって取り組むことができた。
- 多くの資料が準備されていた。
- 豊富な言語活動が用意されていた。
- 「授業づくりのスタートライン」にのっとった授業になっていた。
- 学習内容が多すぎたのではないか。
- 伝える相手がどういう相手なのか分かった上で、相手意識はもてるのではないか。
- グループでの発表は発表をさせて終わりではなく、写真のこういった部分からそれを選んだのか、などの説明の仕方について、教師の評価が必要ではないか。
- このPRは自分の意見か、菊川中の総意なのか、迷っていた生徒もいたようだ。
- 伝えたいことが資料に誘導されすぎていたのではないか。

2 提案

- ・他のグループの発表に対して、聞くためのワークシートを用意して、メモをとる活動をして良かったのではないか。
- ・伝えるべき相手が近すぎたのではないか。大人と子どもなど、もっと違った相手でも良かったのではないか
- ・身近な題材もよいが、身近ではないものを選ぶという方法もある。
- ・発表の仕方として、写真ごとになぜそれを選んだのかを発表させるという方法もあったのではないか。
- ・班で写真や伝えたいことをしぼるのではなく、それぞれ個人で小六と他中生に伝えることの共通点・相違点を考えさせても良かったのではないか。

3 授業後の考察

生徒につけたい力、学ばせたいことを明確にした上で、授業を構想していくことが重要である。そのために何を学習するのかという学習内容を絞り込み、どういう教材や資料を選択して、どう提示するのかを慎重に検討する必要がある。また、言語活動についても生徒にどういった力をつけるのかという目的を明確にし、つけたい力に適切な言語活動を仕組んでいくことも必要である。授業者は全体を見通して計画をしっかりと立て、生徒にめあてを示す。そうすることで生徒も見通しをもって、段取りを考えながら、授業に主体的に取り組んでいくことができると考えられる。

今後も全国学力・学習状況調査結果、授業評価などを参考に、どういう力をつけるべきかの分析を行い、生徒の育成すべき力をのぼすための教材開発、研究を引き続き行っていきたい。また、授業の中で自分にどんな力が身についたのかを生徒に実感させるためには、授業のまとめや振り返りをしっかりと行い、十分でない部分、さらに力をつけてほしい部分については、家庭学習へとつなげていくことも考えながら、授業を作っていく。

◎ 学校全体での取組

1 授業規律の徹底

- (1) 学習の心得を各教室に提示〈授業評価と連動した学習の心得を提示し、日頃から授業規律を意識して、授業に臨めるようにした。〉

2 話し合い活動の充実に向けて

- (1) 発表の仕方の提示〈ラミネート加工し、マグネット付きのものを各教室に設置し、授業の必要に応じて黒板に貼って提示できるようにした。〉
- (2) 話し合い活動の型の提示〈全国学力・学習状況調査結果の国語科で出題された問題を使って、司会者の役割や話し合い活動の流れを確認し、話し合い活動の型を個人にプリントで配布。同時に、全クラスの班分を教室におき、どの授業でもその型に従って、スムーズな班での話し合い活動ができるようにした。〉

3 授業方法について

- (1) 周南市の「授業づくりのスタートライン」に則した授業づくり

- ①「授業のめあて」または「学習課題」を明確に示す【導入】
- ②学習課題の追究や授業のねらいの達成に向けての「主発問」をする【展開】
- ③学習課題追究やねらいの達成に向けた「活動」を仕組む。【展開】
(思考力・判断力・表現力を育成するために言語活動を積極的に取り入れる)
- ④学習活動や授業のねらいに対応した「まとめ」を行う【まとめ】
- ⑤授業の「振り返り」を行う。【まとめ】

- (2) 授業の振り返りの工夫

- ①国語科（授業評価）、数学科（学習の歩み）、理科（OPPA＝ワン・ページ・ポート・フォリオ・アセスメント）など、様々な振り返り法が提示され、共有化された。

4 家庭学習の充実に向けて

- ① 自主学習ノートコンクール〈各クラスのページ数の平均を競う〉
- ② 自主学習ノートコーナーの設置〈文化祭で全校生徒のこれまでのノートを自由に手にとって、互いの学習方法を確認しあった〉

◎ 終わりに

授業づくり拠点校の指定を受け、校内で共同して実践する体制が整いつつある。指定を受けた教科のみならず、すべての教科で同じ取組をしていくことが、生徒の力を伸ばしていくことにつながるはずである。

今後も、さらなるデータの分析により、生徒につけさせたい力を明確化すると共に、すべての教科が同一歩調で取り組むこと、またその取組の徹底と継続が必要となってくる。これまで積み重ねてきた実践を確実に定着させ、その上で、新たな研究実践の方法を提案していくことで、さらなる成果が期待できると考えている。